

アルボウイルス感染症にご注意を

アルボウイルス感染症とは

蚊などの吸血昆虫によって媒介されるウイルス感染症

・原因ウイルス

アカバネウイルス、イバラキウイルス、チュウザンウイルス、アイノウイルス、ピートンウイルスなど

・主な症状

死流産、四肢の関節の湾曲、奇形

アルボウイルス感染症は妊娠中の母牛に感染すると、死流産や異常産子の分娩など大きな被害が発生します。季節性があり、吸血昆虫の行動が活発化する夏から秋にかけて流行します。

予防には吸血昆虫の防除とワクチン接種が有効です。(流行前の4月～6月頃に接種)

ワクチン接種で農場をはじめ地域全体で抗体保有率を高めてウイルスの侵入や増殖を予防しましょう。

アルボウイルス感染症 抗体調査

家畜保健衛生所では、毎年6月～11月にかけて、アルボウイルス感染症(アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症、イバラキ病、牛流行熱)の抗体調査を行なっています。

御協力いただいている農家さんの子牛から、定期的に採血を行い、アルボウイルスの侵入を監視しています。

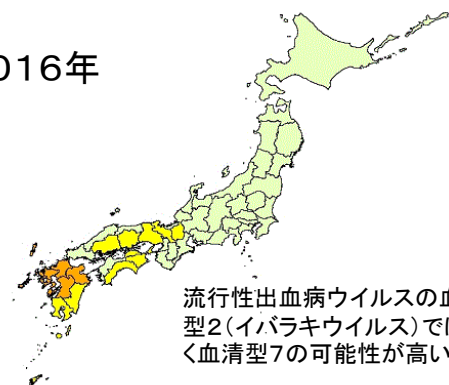
アカバネウイルス

2016年



イバラキウイルス

2016年



流行性出血病ウイルスの血清型2(イバラキウイルス)ではなく血清型7の可能性が高い

□ データなし □ 陽転なし □ 8月陽転 □ 9月陽転 □ 11月陽転

アカバネ病抗体調査での陽転はありませんでしたが、2016年6月に三重県にてアカバネ病の発生が報告されています。

ワクチン接種(4月～6月)と吸血昆虫の防除を行い、異常産の発生防止に努めましょう！！